

地域・生徒に合わせた番組づくり ～これまでの指導を振り返りながら～

鹿児島県立種子島高等学校 奥田 純一

自己紹介

- ・昭和49年生まれ 40歳
- ・鶴丸高校、鹿児島大学大学院法学研究科修士課程修了
- ・平成11年から教職へ 教員・放送部顧問歴とも16年目
- ・鶴丸高、阿久根高、鶴翔高、現在は種子島高4年目
- ・進路指導部 就職チーフ3年目



今回お話しすること

1. これまでの勤務校での取り組み
2. 指導していく上で心がけていること

鶴丸高校での取り組み

- ・自分の出身校です
- ・自分も放送部(朗読)でした
- ・赴任時も放送部は活動中
- ・ちょうどパソコンでの編集が始まった頃で、PCによるラジオ番組編集をしていました



鶴丸高校の生徒と作品

- ・プロットがよく練られたものが多かった
- ・良くも悪くも「理論先行型」
- ・「文科省推薦番組」的な作品が多く、型破りな方向には向きにくかった



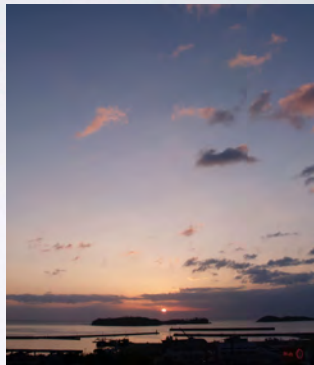
鶴丸高校時代の代表作品

- ・『才能』(第24回(H14)九州大会 ラジオ番組部門第2位)
- ・曲は生徒オリジナル、セリフはCD-Rでパーツ録りを繰り返し、「間」にこだわりました
- ・左右のバランスにも気を遣っています



阿久根高校時代

- ・放送部はなし
- ・統廃合まで3年という学校で、なかなか放送部を作る状況には至らず
- ・ちょうど鹿児島で九州大会がある頃でした



鶴翔高校での取り組み

- ・阿久根高校が3年で閉校、統廃合先の鶴翔高校へ
- ・「お昼の放送を流してほしい」という要望に応え、DJをしたい生徒を募集、放送部ができました
- ・第1世代は番組制作なし



鶴翔高校放送部第2世代

- お昼の放送担当と、番組制作担当に分かれる
- 「3年A組シリーズ」の作り方や製品を紹介するビデオを制作
- テレビドキュメント「そんなに要るの?」制作, 第56回(H21)NHK杯へ



鶴翔高校放送部第3世代

- 1年生3人が秋に入部
- まずは九州大会へ
- NHK杯で全国のレベルの高さに驚く
- 最後のNHK杯は、3人で5作品制作し、番組4部門にフルエントリー

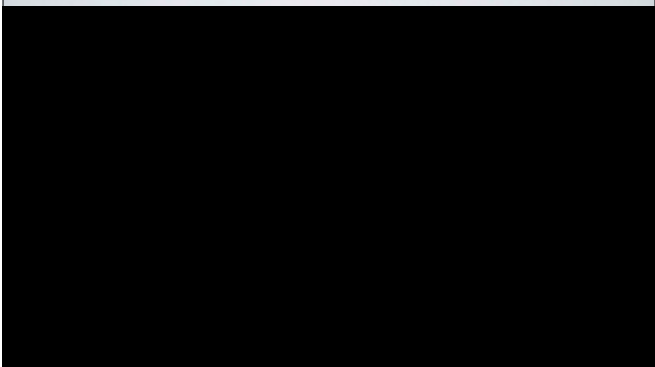


すごく『自由』な生徒たち

- 勉強は好きではない
- 興味が無いことには目が向かない
- でも、一度決めたことには打ち込む
- 野生の勘は鋭い

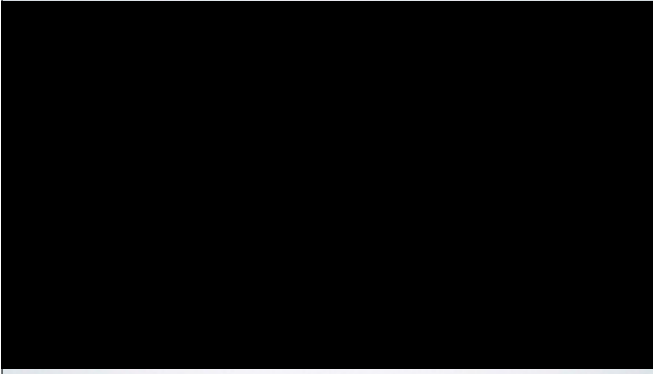


地元自治体との連携(KKBふるさとCM大賞)(30秒)



「お騒がせしてます!」第8回KKBふるさとCM大賞2009・すてがたいデ賞

『メンドクサイことの先に』(8分)



第31回(H21)九州大会 テレビ番組部門第3位

就職ネタを振ってみよう

- ・自分が就職チーフだったこともあり、就職ネタを振る
- ・先輩や卒業生、銀行や工場の人事担当者、ハローワークにも取材素材の総時間数は数十時間に
- ・『再挑戦』(第31回(H21)九州大会ラジオ第2位)(7分)
- ・『先輩たちのその後』(第57回(H22)NHK杯ラジドキュ奨励賞)(7分)



高校生平和祈念 ビデオ制作コンクールとの出会い

- ・鹿児島県出水市に飛行場があったらしい、そこが特攻隊の訓練場として使われたという情報を入手
- ・12/24にアポ取り→そのまま取材へ
- ・お爺さんの涙に衝撃を受け、番組制作を決める



『まだ何も終わっていない』(9分)



・第6回高校生平和祈念ビデオ制作コンクール 第2位(2010年3月)



鶴翔高校放送部第4世代

- ・自分が鶴翔高校最後の年に、1年生が大量入部
- ・人数が増えてトラブルも増加、辞めさせた生徒も
- ・第32回(H22)九州大会ラジオ優勝『悪役の本音』(7分)



そして種子島へ

- ・部活にかまけ、家庭はほったらかしだったと反省
- ・息子と釣りをして、スローライフをエンジョイしてきますと宣言し、種子島へ



実は放送部のニーズがあった

- ・県立甲陵高校の小脇先生と一緒に転勤
- ・新任式で挨拶し、呼びかけたところ6人も集まる



放送部第1世代

- ・声優志望の3年女子・1年女子
- ・タブレット使いの1年女子
- ・特異なキャラの1年男子
- ・「種子島が好き」「種子島の宣伝をしたい」という生徒が多かった



何もない，ではどうする？

- ・離島の学校は予算が無い，旅費もない
- ・新しい部活をやることには否定的
- ・1年目は同好会扱い，部費なし，派遣補助なし



まずは道具を揃えよう

- ・まずはノートPCでラジオ編集からスタート
- ・LenovoのデスクトップPCを3万円で購入
- ・ビデオカメラはCX700Vを18回払いで，ガンマイクも自腹で購入



とりあえずコンテストに出してみよう

- ・第58回NHK杯ラジドラ『となりのあの子』(8分)
- ・県大会でいきなり優勝
- ・震災のあった年で，予備審査で落選，東京に行けず



システムも少しずつ充実

- 動画ファイル
収納サーバ
(2TB+3TB)+
外付Backup
- どのPCでも
同じ作業が可
能に





種子島高校動画ニュース

- 撮影と動画編集の練習
- 完成品はYouTubeへ→学校
blogに貼り付け、学校紹介
DVDにもすべて収録
- 市役所等でも活用
- 第1世代の卒業までに、計
23本を制作



種子島高校動画ニュース05 『感動の瞬間に立ち会いました』(6分)



ポルトガルで九州大会の準備

- ・平和祈念ビデオ制作コンクール向けの素材を準備→コンクールが消滅
- ・追加取材を繰り返し、ウォーキング好きな地域のおじいさんの歴史を紹介する番組に路線変更
- ・締め切りの関係で、ポルトガルの道中も編集を行う



『歩み』

第34回(H24)九州大会 テレビ番組部門 優勝

いったん休眠状態へ

- ・第1世代は大活躍し、知名度は高まったが、部員は入らずじまい
- ・8月の総合文化祭でいったん終了、放送部は休眠状態へ



第1世代を振り返って

- ・ゼロから部を作りあげ、地域の仕事や学校の広報の仕事を請けながら活動を拡大
- ・新聞などにも取り上げられ、知名度は向上
- ・作品の評価も高く、コンテストでも好成績

- ・土日も活動、休みなし
- ・保護者から「部活のせいで子供が勉強できない」
- ・活動の内容が伝わらず、キツイイメージだけが先行、後輩は全く入らずじまい
- ・地域貢献→コンテスト入賞へと目標が変化

と思ったら、仕事が入る

- ・(株)ソフトバンクモバイルより、準天頂衛星「みちびき」実証実験の記録とまとめVの依頼
- ・3年生の就職・進学が決定したため、受注



『ARを駆使して登場キャラを探す旅 IN 種子島』日本語版



ARを駆使して登場キャラを探す旅 in 種子島

平成25年度 準天頂衛星システム利用実証
種子島ランドマーク実証実験レポート

『ARを駆使して登場キャラを探す旅 IN 種子島』英語版



The Journey to find Game Characters with Augmentation Reality in Tanegashima Island

Tanegashima Landmark
Demonstration Experiment 2013



- ・JAXAの全面協力
- ・経済産業省への報告資料に利用
- ・「みちびき」に関する各種国際会議でも活用



第2世代は独り

- ・11月の文化祭クラス劇で活躍した、2年生の女子
- ・中学では応援団、現在は帰宅部
- ・コミュカが高く、声も大きい、今までに無いタイプ
- ・2年生の3学期に入部
- ・アナウンスを希望→練習開始



アナウンス→番組へ

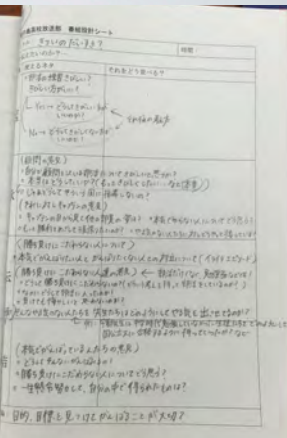
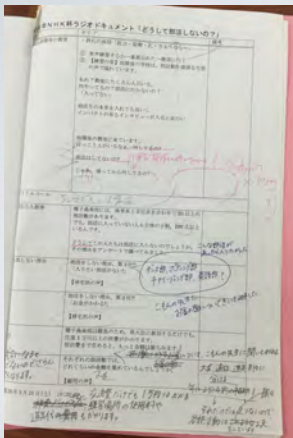
- ・純心高校の廣尾・永田先生の助けを借りつつ練習
- ・最初で最後のNHK杯、なんとか全国に行かせたい
- ・アナウンスの練習は継続しつつ、ラジドキュ制作開始



『どうして部活しないの?』

- ・本人談「放送部がこんなに楽しいなら、早く入れば良かった」
- ・他にも帰宅部の生徒はいる→どうして?→インタビューを繰り返す





指導していくうえで 心がけていること

番組づくりの指標

1. 主張は明確か
2. 初めて観る・聴く人が理解できるか
3. 観る側・聴く側の立場に立っているか
4. その番組によって、誰かが幸せになれるか

番組制作のポイント

- ①主張は明確か
- ②初めて観る・聴く人が理解できるか
- ③観る側・聴く側の立場に立っているか
- ④その番組によって、誰かが幸せになれるか

生徒に合わせたネタ選び

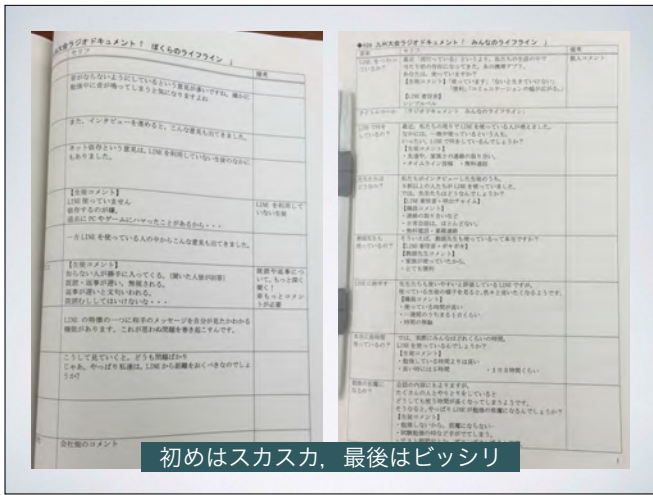
- ・進学校、普通科、普職など、学校によって雰囲気は違う
- ・生徒に合わせて提示する材料は変える
- ・「やりがい」は重要



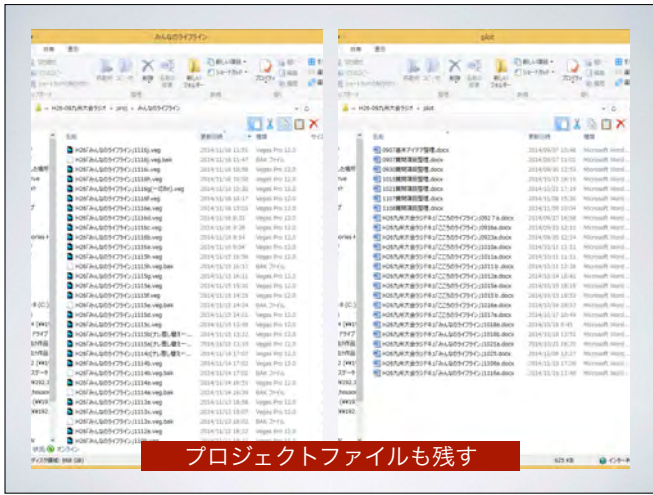
まずは切って、繋げてみる

- ・とにかく録音→切る→繋ぐにトライさせる
- ・初めは失敗の連続→質問を変えたり、前後を入れ替え、少しずつ改善
- ・トライ&エラーの実践が大切
- ・編集ソフトのマーカー機能を活用





初めはスカスカ、最後はビッシリ



プロジェクトファイルも残す

立場は明確に 検証は綿密に

- 番組を作る以上、一定の方向性や主張は必要
- 可能な限り資料を集め、厳選させる
- 主張の根拠付けをしっかりさせる(裏取り・多数の意見を収集)

取材協力者には礼を尽くす

- 結果報告には必ず行く
- 取材対象者の喜ぶ声が、制作意欲向上につながることも

ご質問にお答えします

Q. 生徒の意欲を持続させながら番組を作らせるには?(テーマ設定)

- 生徒が問題意識を持っていること、一番主張したいことを追求させるのが近道です
- 大人の言うことに不満や疑問を持っていないか 自分たちは本当はこう思っているのに!!
→筋道立てて説明できるなら、番組になる

Q. 最低限、揃えておいたほうが良い機材

- パソコンと編集ソフト
- パソコンはCeleron機でも構わないが、i3以上が快適。
メモリは多めに(最低4GB, 理想は8GB以上)。内蔵HDDが小さくても、外付けにバックアップすれば良い。
- 編集ソフトは **SONY Vegas Pro** を使用しています。直感的で、鶴翔でも種子島でも生徒がすぐに覚えました。

Q. 最低限、揃えておいたほうが良い機材

- ビデオカメラについて
- アクセサリと取り込みソフトが充実しているのはSONY
- **ガンマイク**を必ず用意
- マイク入力端子が無いカメラを買うと不便
- 手持ちマイクを繋ぐ場合は MONO→STアダプタを!!



